

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	84人	算数	84人	理科	84人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	84人	算数	84人	理科	84人
------	----	-----	----	-----	----	-----

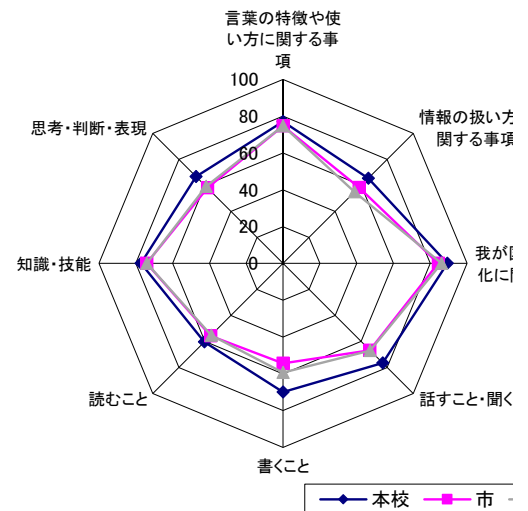
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	77.1	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	65.5	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	89.3	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	76.5	66.7	66.9
	書くこと	69.9	54.3	59.3
	読むこと	60.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	77.2	74.1	74.0
	思考・判断・表現	66.8	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

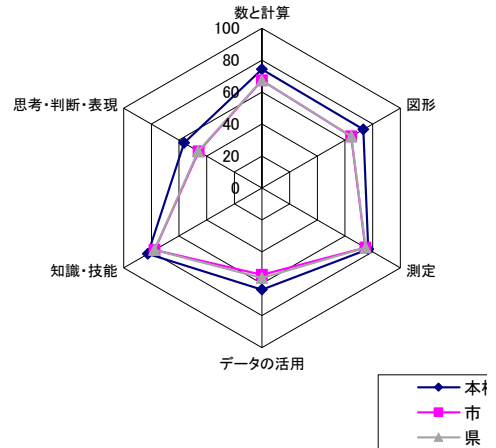
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○領域の平均正答率は77.1%で、市の平均より2.4ポイント高い。特に前年度に履修した漢字の読み取り書き取りについての設問は、6問中5問で市の平均を上回った。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読む設問の正答率は56.0%で市の平均より2ポイント下回っている。	・漢字の学習において、指書きやなぞり書き、写し書きといったステップを踏んだ指導を行い、反復練習する機会を設けたり、AIドリルを活用したりして習熟を図る。 ・アルファベットを正しく読み書きする練習を徹底する。 ・身の回りの物をローマ字で書いてみるなど、楽しみながら学習を進めていく。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は65.5%で、市の平均より7.1ポイント高い。国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかを見る設問では、正答率は65.5%で、市の平均より7.1ポイント高い。	・様々な同音異義語を調べる活動を取り入れるなど、国語辞典を活用する機会を確保する。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は89.3%で、市の平均より5ポイント高い。漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解しているかを問う設問の正答率は89.3%で、市の平均より5ポイント高い。	・漢字の成り立ちやへんやつくりの意味について考えさせる機会を確保し、興味や関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は76.5%で、市の平均より9.8ポイント高い。司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかを見る設問の正答率は45.2%で市の平均より17ポイント上回っている。	・互いの意見の共通点や相違点に着目して聞きながら、自分の意見をまとめ、理由を明らかにして述べるができるように、話し合い活動を充実させる。 ・国語の学習で学んだことを生かして学級活動の話し合いが行えるようにするなど、意識して実践できる場を意図的に設ける。
書くこと	○領域の平均正答率は69.9%で、市の平均より15.6ポイント高い。特に、指定された長さで文章を書くことができるかどうかを見る設問の正答率は69.1%で市の平均より18ポイント上回っている。	・日頃から、興味や関心があるテーマについて、文章を書かせることで、理由や考えたことなどを明確に伝えられるように指導していく。
読むこと	○領域の平均正答率は60.4%で、市の平均より4.8ポイント高い。特に、登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるかを問う設問の正答率は66.7%で市の平均より14.2ポイント上回っている。	・場面の移り変わりを捉えるために人物や場所、時間などに関するキーワードを見つけて、それを抑えながら文章を読み取る練習を重ねていく。 ・引き続き読書の時間を積極的に設けることにより、日常的に文章の内容を読み取る練習をする。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.3	67.3	67.4
	図形	73.3	64.5	64.7
	測定	76.8	74.7	74.9
	データの活用	63.7	54.4	56.4
観点	知識・技能	82.5	77.6	77.8
	思考・判断・表現	56.3	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

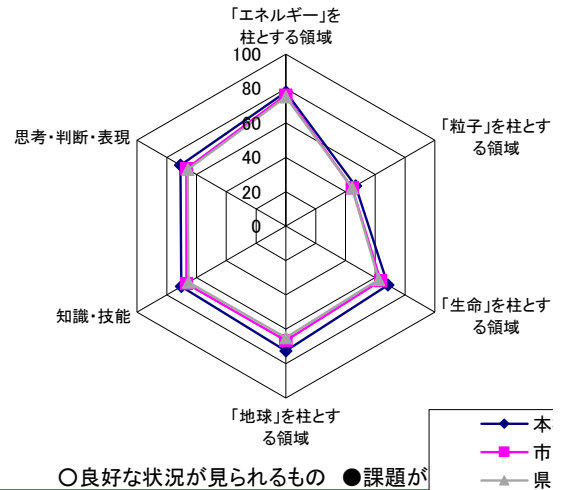
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○領域の平均正答率は74.3%で、市の平均より7ポイント上回っている。</p> <p>○整数-小数第一位の計算をする設問では、正答率が71.4%で、市の平均を22.6ポイント大きく上回っている。</p> <p>○大きな数の表し方（万の単位）について、正しいものを選ぶ設問では、正答率が88.1%で、市の平均を7.1ポイント上回っている。</p> <p>●式の意味を正しく捉え、言葉で説明する問題では、市の平均を5.9ポイント上回っているものの、正答率が19.1%で、高いとは言えない。</p>	<p>・基本的な計算力を身に付けている児童が多いと考えられる。今後もドリル等を用いて反復練習を繰り返すことで、基礎・基本のさらなる定着を図っていく。</p> <p>・式の意味を正しく捉え、言葉で説明する活動を継続して行っていく。</p>
図形	<p>○領域の平均正答率は、73.3%で、市の平均より8.8ポイント上回っている。特に球の性質を利用し、長さを求める設問では、市の平均より16.4ポイント高くなっている。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できる説明をする設問では、市の平均を5.4ポイント上回っているが、正答率は39.3%で高いとは言えない。</p>	<p>・円や球についての理解を深めるため具体物などを利用して、直径や半径の意味を確認させ、復習問題やフォローアップ問題を活用して習熟を図る。</p> <p>・学習内容をキーワード化するなどして知識の定着を図るとともに、それらの知識を活用して理由を説明する活動を意図的に取り入れる。</p>
測定	<p>○領域の平均正答率は、76.8%で、市の平均より2.1ポイント上回っている。特に身近な物の重さについて、およその見当を付ける設問では、市の平均より2.7ポイント高い。</p> <p>●時間が経過する前の時刻を求める設問では、正答率が78.6%で、市の平均より2.5ポイント下回っている。</p>	<p>・身近にあるものの重さや長さに触れる機会を設け、量感を養う。</p> <p>・日常生活で時間や時刻を意識させるとともに、復習問題やフォローアップ問題を活用して、理解を深めていく。</p>
データの活用	<p>○領域の平均正答率は、63.7%で、市の平均より9.3ポイント上回っている。</p> <p>●2つの棒グラフで、1目盛りの数が異なることに注意しながら棒グラフを読み取る設問では、市の平均を23.2ポイント上回っているものの、正答率が42.9%で正答率が高いとは言えない。</p>	<p>・算数の授業の中で棒グラフを書く活動を繰り返す行うとともに、社会や総合の学習など他教科の学習と結び付けながら習熟を図っていく。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	78.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	46.8	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	68.5	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	72.6	66.6	64.9
観点	知識・技能	70.3	66.8	65.4
	思考・判断・表現	70.8	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は78.0%で、市の平均より1.8ポイント高い。</p> <p>○実験結果として適切な記録を選ぶ設問においては、正答率が69.1%で、市の平均より8.3ポイント高い。実験を通して体験的に学んだ内容はよく理解されていた。</p> <p>○鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ設問においては、正答率が78.6%で、市の平均より8.0ポイント高い。</p> <p>●大きい音と小さい音を比べた時の震え方についてあてはまる内容を選ぶ設問においては、平均正答率が84.5%で、市の平均より3.8ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も実験など体験的な学習を多く取り入れて理科に対する興味・関心を高め、知識の定着を図る。 ・基礎的な知識を復習する時間を設ける。 ・音の性質を理解するために、音楽室にある楽器などを実際に使って自由に音を鳴らしてみること、その性質について理解を深められるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は46.8%で、市の平均より2.3ポイント高い。</p> <p>○同じ種類の木でできている積み木を答える設問においては、正答率が84.5%で、市の平均より5.8ポイント高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形を変えてもものの重さは変わらないことを理解させるために、ものの形の変化を見るのではなく、重さを量った結果、どのようになったかを記録カードなどに書かせる。 ・それぞれの実験結果をグループや全体で話し合い、分かったことなどで考えを共有させることで、どのようなことが言えるのかの理解を深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は68.5%で、市の平均より4.9ポイント高い。</p> <p>○正しい草丈の測り方を選ぶ設問では、正答率は65.5%で、市の平均より23.5ポイント高い。</p> <p>●虫眼鏡の正しい使い方を選ぶ設問では、市の平均より4.8ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の観察などでは、実験用具の正しい使い方について指導する。また、実験回数を増やし、実験用具を繰り返し使うことで使い方の定着を図る。 ・個人で実験するだけでなく、グループでやることで間違いなどを指摘し合える環境を意図的に作る。
「地球」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は72.6%で、市の平均より6ポイント高い。</p> <p>○正午ごろの温度計の様子を選ぶ設問では、正答率は81.0%で、市の平均より14.3ポイント高い。</p> <p>●午後2時のかげの記録を選ぶ設問では、市の平均より0.9ポイント高いが、正答率は54.8%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察したことを正しく記録したり、実験結果から分かることなどをグループで話し合い考えを深めたりできるようにする。 ・既習内容の定着を図るために計画的に全学年の学習内容を復習する時間を設ける。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」という質問に対する肯定的回答率は69%で、市の平均より5.6ポイント高い。児童のできるようになりたいという学習への意識の高さを感じられる。一方で「むずかしい問題に出あうと、よりやる気が出る」という質問に対する肯定的回答率は52.3%で、市の平均より5.0ポイント低い。今後は、自分で考えて学習することや、難しい問題に挑戦する力の育成に努めていきたい。

○「総合的な学習が好きだ」という質問に対して、肯定的回答率は91.7%で、市の平均より9.2ポイント高い。地域のことや身の回りの生活で気になる出来事に対して興味・関心を持って意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。引き続き、地域の人や施設に協力を仰ぎながら、体験的な学習と、本やパソコンを使った調べ学習を推進し、児童が楽しく学習に向かえるようにしていきたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問に対しての肯定的回答率は67.9%で、市の平均より7.2ポイント高い。そして「自分がもっている能力を十分に発揮したい」という質問に対しての肯定的回答率も72.6%で市の平均より8.9ポイント高い。このことから、子どもたちには、人のために自分の持っている能力を生かしていきたいという社会貢献の思いがあることが見受けられた。今後もこの気持ちを大切にして、一人一人にあった役割などを与えながら活躍の場を設けていきたい。

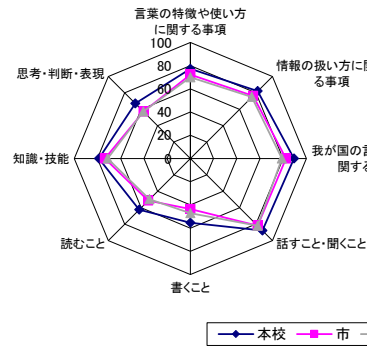
●「早寝早起きを心掛けている」という質問に対しての肯定的回答率は34.5%で、市の平均より11.5ポイント低い。また「ふだん（月～金曜日）1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか。」という質問に対して「8時間以上9時間より少ない」という回答が市の平均よりも5.6ポイント多かった。このことから適切な睡眠時間をとることと、規則正しい生活習慣の見直しが必要であると考えられる。保健の学習でも基本的な生活習慣について学ぶが、家庭との連携も図りながら、折に触れて健康的な生活の大切さについては伝えていきたい。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に対して、肯定的回答率は75.0%で、市の平均より7.3ポイント高い。このことから、家庭内でのコミュニケーションが図られ、児童が将来について考えながら生活できていることが伺える。引き続き、家庭と連携しながら安定した家庭生活が送れるようサポートしていきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.3	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	82.1	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	89.3	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	87.8	81.9	82.0
	書くこと	55.4	43.5	47.2
	読むこと	62.4	51.4	49.8
観点	知識・技能	78.8	73.6	71.3
	思考・判断・表現	67.0	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

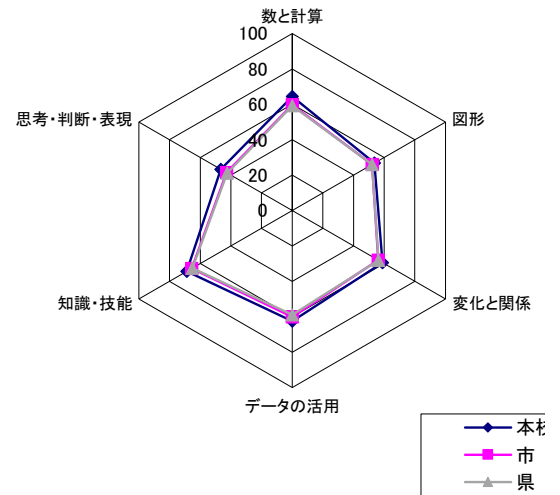
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○領域の平均正答率は77.3%で、市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を正しく書く設問では全ての漢字の正答率が市の平均を上回っている。</p> <p>●漢字を正しく読む設問では、全ての漢字で正答率が94%以上と高いが、その中で市の平均をやや下回る漢字もある。</p>	<p>・今後も、朝の学習や家庭学習等で基礎的な漢字の反復練習を行っていく。漢字の苦手な児童については、音読を含め、日常から漢字に触れる機会を増やしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○領域の平均正答率は82.1%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>○漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ設問では、正答率が82.1%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。</p>	<p>・日頃から漢字の「総画」や「部首」を意識できるような指導を行ったり、漢字辞典を活用したりして、漢字に興味を持たせるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○領域の平均正答率は89.3%で、市の平均を6.9ポイント上回っている。</p> <p>○文を読み、適することわざを選ぶ設問では、正答率は89.3%で、市の平均を6.9ポイント上回っている。</p>	<p>・ことわざに関する本やスタンダードダイアリーを活用し、日常的にことわざに触れる機会を設けることで、そのよさに気付かせ、生活の中でも進んで使おうとする意欲が高まるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○領域の平均正答率は87.8%で、市の平均を5.9ポイント上回っている。</p> <p>○全ての設問で正答率が市の平均を上回っており、特に、話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ設問では、正答率が84.5%で市の平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>●意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を書く設問では、無回答率が14.3%で市の平均を0.3ポイント上回っている。</p>	<p>・国語以外の教科でも話し合いの場面を意図的に設定し、意図したことが伝わるような話し方の工夫を意識できるようにする。</p> <p>・司会者を輪番で行わせるなどして、話し合いの要点をまとめる経験をさせる。</p>
書くこと	<p>○領域の平均正答率は55.4%で、市の平均を11.9ポイント上回っている。</p> <p>○全ての設問で正答率が市の平均を上回っており、特に、指定された長さで文章を書く設問では、正答率が65.5%で市の平均を17.3ポイント上回っている。また、無回答率が全ての設問で、市の平均より8ポイント以上低くなっている。</p>	<p>・今後も様々な活動場面で書く活動を積極的に取り入れて、条件に合わせて文章を書く練習を行う。</p>
読むこと	<p>○領域の平均正答率は62.4%で、市の平均を11ポイント上回っている。</p> <p>○全ての設問で正答率が市の平均を上回っており、特に、登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える設問では、正答率が78.6%で、市の平均を17.1ポイント上回っている。</p>	<p>・学校課題研究において、叙述を基に登場人物の気持ちを読み取る活動を行ったが、今後も国語の授業の中で研究を生かした活動を取り入れ、読む力を身に付けられるようにする。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.4	59.7	59.2
	図形	53.6	52.1	52.1
	変化と関係	58.9	56.1	56.3
	データの活用	62.5	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.8	65.5	65.1
	思考・判断・表現	46.6	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

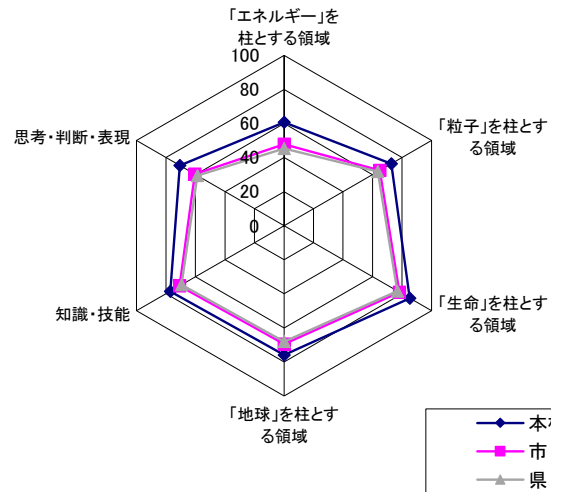
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は64.4%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。 ○小数の相対的な大きさの理解、数直線を使った大小関係については市や県と比較してよくできている。 ●小数第一位×整数の計算では、市と比較して7ポイント以上下回っていて定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算のきまりや加減乗除のいろいろなパターンの式を繰り返し復習することで内容の定着を図る。 ・小数×整数の計算や四則計算の順序の理解が不十分であるため、習熟度別学習などの学習形態を工夫し、個に対応した学習活動をしたり、計算スキルやA Iドリル等を活用したりする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は53.6%で、市の平均を1.5ポイント上回っている。 ○三角定規を利用して正しい角度を選ぶ設問の正答率が75.0%で、市の平均を8.8ポイント上回っている。 ○複雑な図形を組み合わせた面積を求める設問の正答率が64.3%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。 ●ひし形の作図をする設問の正答率が66.7%で、市の平均より4.6ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作図の仕方について、図形の定義から導き出された性質や特徴、用具の基本的な使い方などの既習事項を確認しながら、取り組ませる。 ・頭の中で図形の形をイメージしながら様々な問題に取り組ませることで習熟を図る。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は58.9%で、市の平均を2.8ポイント高く、すべての設問で市の平均を上回っている。 ○数量の関係について、正しく表された図を選ぶ設問の正答率は72.6%で、市の平均より4.8ポイント高い。 ●伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明する設問では、市の平均を1.1ポイント上回っているものの、正答率が23.8%と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科との関連を図り、言葉や文で説明する活動を多く取り入れる。 ・伴って変わる2つの数量関係を言葉で説明をする問題に課題が見られるため、自分の考えをノートにまとめたり、発表したりすることで、数学的な見方・考え方の育成に努める。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の平均正答率は62.5%で、市の平均を2.4ポイント上回っている。 ○2つの折れ線グラフから分かることとして正しいものを選ぶ設問の正答率は82.1%で、市の平均より7.6ポイント高い。 ●条件にあてはまる表の部分を選ぶ設問の正答率は27.4%で、市の平均より3.3ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元表の読み取りが不十分である。そのため、言葉や数、式を使って説明する場合には、説明するための手順を示し、表現することに慣れるような指導をする。 ・理科など他教科との関連を図り、グラフから様々な情報を正確に読み取り、それをもとに分かったことや考えたことを言葉に表す学習を実施することで、学力の底上げを図る。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.7	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	72.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	85.2	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	75.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	77.1	70.8	69.5
	思考・判断・表現	70.7	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は60.7%で、市の平均より12.9ポイント上回っている。</p> <p>○簡易検流計の仕組みや電流が大きくなる回路を答える設問では、正答率が市の平均より20ポイント以上上回っている。</p> <p>●乾電池のつなぎ方の名称を答える設問では、平均正答率が56.0%で、市の平均より1.9ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も、実験を通して器具の操作や試行錯誤の時間を十分に確保し、理解を深められるようにする。</p> <p>・「並列」を「平列」と書き間違える児童が多かったので、理科的用語を正しく用いて答えられるよう指導していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は72.8%で、市の平均より7.9ポイント高い。</p> <p>○ものの温まり方と体積の変化を問う設問では、すべての設問で市の平均正答率を上回った。</p> <p>○ボールに空気を入れるとはずむ理由を説明する設問では、正答率が75.0%で、市の平均を12.3ポイント上回った。また、無回答率も市の平均と比べてとても低い。</p>	<p>・今後も、学習した内容を日常生活の中の様々な事象と関連付けて考えることで、理解を深められるよう支援していく。</p> <p>・理由を文章で記述する力を高めるため、授業において考察やまとめを自分の言葉で書くことを継続していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は85.2%で、市の平均より7ポイント上回っている。</p> <p>○サクラの様子がどのように変化するかを答える設問では、正答率が79.8%で、市の平均より18.7ポイント上回っている。</p> <p>●腕を曲げた時の筋肉のようすを答える設問では、正答率が71.4%で、市の平均より3.2ポイント下回っている。</p>	<p>・身の回りの生き物への興味関心が高いので、観察したり実際に飼育したりする場を今後も充実させていく。</p> <p>・目に見えない物についての学習では、模型や具体物を操作したり資料映像で確認したりして、理解を深める支援をしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○領域の平均正答率は75.9%で、市の平均より6.4ポイント上回っている。</p> <p>○月の動きと動く向きを答える設問では、正答率が83.3%で、市の平均より14.8ポイント上回っている。</p> <p>●水蒸気の名称を答える設問では、正答率が59.5%で、市の平均より0.4ポイント下回っている。</p>	<p>・日常の中で、身の回りの事象を理科的用語を用いて説明する機会を繰り返し設ける。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」という質問に対する肯定的回答率は88.3%で、市の平均より18.3ポイント上回っている。「家で、学校の授業の予習をしている」という質問に対する肯定的回答率は75.3%で、市の平均より24.9ポイント上回っている。今後も見通しを持って計画的に学習し、予習だけでなく復習にも力を入れていけるよう支援の充実を図りたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」という質問に対する肯定的回答率は81.2%で、市の平均より13.7ポイント上回っている。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」という質問に対する肯定的回答率は市の平均より8.5ポイント上回っている。このことから、疑問に思ったことはまず自分で調べ、自力解決しようとする意欲の高さが伺える。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という質問に対する肯定的回答率は97.7%で、市の平均より10.8ポイント上回っている。「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に対する肯定的回答率は市の平均より15.4ポイント上回っている。さらに、「クラスは発言しやすいふん囲気である」という質問に対する肯定的回答率は97.6%で、市の平均より15.1ポイント上回っている。このことから、昨年度の学校の重点取り組みである「思いを豊かに表現し、自分の考えを深める」活動の成果が表れていると考えられる。

○「家の人と学校のでできごとについて話をしているか」や、「自分が褒めてほしいことを褒めてくれるか」という質問に対する肯定的回答率はどちらも96.5%で、市の平均より8~9ポイント上回っている。このことから、家庭内で十分なコミュニケーションが図られ、自分に自信を持って生活することにつながっている様子が伺える。

●「1か月に何冊くらい本を読みますか」という質問に対して、10冊以上読んでいる割合は市の平均より6.4ポイント下回っている。高学年になり、読む本のジャンルが多様化してきて、ページ数の多い単行本や文庫本を好んで読む児童も多く見られる。今後も、読んだ冊数にとらわれることなく、読書に親しむ時間を確保したり、お互いに本を紹介し合ったりする時間を大切にしていきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力の育成	・字数を制限したり短い言葉で要点をまとめたりしながら文章を書く活動を意図的に取り入れた。	・4・5年生ともに、国語の指定された長さで文章を書く設問の正答率は、市の平均を15ポイント以上上回った。
自ら考え、交流し、学びを深められる児童の育成	・児童が見通しを持って学習したり、自力解決に取り組んだりする意欲を高められるように授業展開や課題設定を工夫している。 ・友達の考えと比べて自分の考えを吟味することで、考えを深められるようにしている。	・「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、4・5年生ともに80%を上回るとともに、市の平均より高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数や理科では、用語を正しく使って過不足なく説明する力に課題が見られた。	書く力の育成	・基礎的な知識の習得を図ることに加えて、指定された用語を用いて説明する活動を意図的に取り入れる。